

・「音楽」の使い方

いろんな課題に音楽を使っていたのはなぜだろうと考えた。

ほんとに演劇やエチュードと言うより、まずクリエイティブだなと思う。そうなるには、自分の枠を壊していくこと、自分が戸惑いどうしたらいいか真っ白になったところから、一歩踏み出すこと、かな？ 音楽が流れ、とにかくいきなり表現の仕方を否定され「どうしろと？」というところからヤケになって動いたりしていたと思う。

BGM が向かい風だった。

・演劇というよりも

「ためになる」のではなく、ちょっとした人生経験？ 一発芸的？

もう一度と言われると、ためらう。

・メンバーについて気づいたこと

Yes -No の時の例示はレベルが高いなと感じた。マネとかいう次元ではなかった。この課題の時は、自然と性別が一緒の集団になっていた。

女性陣はこの分野に興味のある人が多かったのかなと思った。

時々他のメンバーの視線をたどると、たどり着いているところが同じだったようにも感じた。